



福井の園児が「千歯」で脱穀

もみすりも体験

福井市の社中央第一こども園と同第二こども園の年

長児計四十二人が、同市淵四の第一こども園で、農家の人たちに教わりながら稲の脱穀ともみすりを体験した。

両園では食育の一環として、毎年田植えから稲刈り、天日干し、脱穀ともみすりまで一連の農作業を体験している。今年は四月末に近くの五十平方メートルの田んぼにハナエチゼンを植え、八月末に三十キログラムを収穫した。

園児たちは地元農家らの指導を受け、乾燥させた稲穂を昔の農具「千歯」で脱穀。歯の部分に挟んで引き抜くと、稲穂から取れたもみが勢いよく飛び散った。もみすりの作業では、もみすり鉢に入れて野球ボールでこすり、玄米ともみ殻に分けた。

最後に園児たちは、自分たちで収穫した新米の塩おにぎりを試食。「もちもちして甘い」「めっちゃくちゃおいしい」「もう一個食べたい」と興奮した様子であったという間に平らげた。残りの玄米は精米し、後日給食で食べる。わらは縄作りに使う予定。

（成田真美）

千歯に挟んだ稲穂を力いっぱい引っ張り、脱穀する園児。福井市の社中央第一こども園で